

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

平成25年10月 2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770901904		
法人名	特定非営利活動法人つむぎの家		
事業所名	グループホーム 柚木		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護事業者		
所在地	大阪府高槻市富田町5丁目16番6号		
自己評価作成日	平成25年10月 2日	評価結果市町村受理日	平成25年12月3日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	平成25年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者さんによつての個別援助に力を入れて取り組んでいる。
- ・事業所の毎月の会議で認知症ケアの勉強会の機会を持ち、パーソン・セントアド・ケアの実践に向けて取り組んでいる。
- ・法人内の他事業所との連携も取りやすく、法人が一丸となって利用者支援を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にある事業所は、法人の理念にも記されているとおり、地域交流を積極的に行っています。散歩や買い物等の外出時には近隣の方への挨拶、地域の廃品回収の協力、その他地域行事に積極的に参加し交流を行い、地域に貢献できるように努めています。利用者援助についても、毎月の会議及び研修を重ねることで職員意識を高め、その人らしく生活が送れるように支援がされています。排泄については、できる限りトイレで排泄という方針で、利用者個々の状態に合わせた援助が行われています。その他の援助についても利用者個々の状態や希望に合わせて、食事のメニューを計画したり、外出の計画を立てたりと、その人らしく生活を送る中で楽しみや生き甲斐が持てるよう援助がされています。また、年に1度開催される家族会では職員が出し物を披露し家族に喜んで頂いたり、その後の食事会では職員と家族、家族と家族との交流があり何でも相談できる関係づくりがされています。このような環境で生活を送る利用者は安心して毎日を過ごしています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲げ、管理者と職員は日々の業務の中で常に理念を意識して取り組んでいる。	施設内に理念を掲げ、職員一同、理念に添ったケアの実践ができています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣へ散歩や買い物などに出掛けている。地域の廃品回収にも協力している。また、地域のイベント、行事にも参加し交流している。	日常的な買い物や散歩だけでなく、地域の行事やイベントに積極的に参加し交流を深めています。また、地域の中学生の職場体験の受け入れや、地域の会議等の会場として施設の開放も実施しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議への参加、運営推進会議での認知症理解にむけた話しており、地域に貢献できる様に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内では事業所の活動内容や地域の為に役に立てる事はないか等も相談している。会議内での意見も参考にしてサービスの向上に役立てている。	定期的に、運営推進会議に参加し施設の活動や事故等を報告し、参加者（家族・消防団・民生委員・包括等）の意見を聞きサービスの向上に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者とは常日頃から、相談したりアドバイスをいただいたり連携を取っている。	行政の担当者とは細かな制度のことなどわからない事があれば、いつでも相談できる関係作りができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束を行った事例もなく、今後も行わない方針である。研修や勉強会を通じて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は施錠しておらず、施設内を自由に行き来できる状態にしています。身体拘束や虐待防止に関する研修や勉強会を通し、職員全員が認識を持った上でケアに取り組んでいます。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて高齢者虐待防止に努めている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についての研修を実施している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づき説明を行っている。報酬改定による料金変更などの際は文書により説明し同意も得ている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族にも来訪時や電話等で要望を聞き反映する様に努めている。	意見箱の設置だけでなく、家族の来訪時にはできるだけ、職員から気軽に話かけられるようにし、利用者や家族からは、直接意見や要望を聴き取っています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	会議時や日々の業務の中でも職員から意見を聞く機会を設け、可能な限り反映している。	毎月グループホーム会議を開催し、行事や物品購入等の、意見や提案を出しあい、得られた意見は実施に向けて話し合い、運営や改善に活かしています。また、理事長も、日常的に職員の要望やケアに対する意見や要望を聴き取り、運営に反映させています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全てのスタッフに対して、個々の実績や能力、勤務状況に応じて職場環境・条件の整備を行っている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講師を招いての勉強会、内部研修、外部研修を実施し、スタッフのスキルアップに努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	見学の受け入れなどで同業者と交流しており、サービスの質の向上にも取り組んでいる。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接等で本人の思いを聞き、入所後も安心して生活できるように対応している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の相談から家族が困っている事などを聞き応じている。家族と共に利用者を支援していく姿勢で関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いをよく聞き、必要なサービスの説明や他事業所への紹介など、相談者に応じて対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中から利用者の残存機能を活かし、支えあう関係を意識して接している。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り合い、利用者の状態を常に知ってもらえる様に心がけている。又家族と相談しながら、共に利用者を支援していく関係になる様に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで行っていた美容室や店、行事等へ出掛けられる様に支援してしている。	地域の利用者が多く、なじみの美容院や知人の商店に通えるような支援をし、本人がこれまで大切にしてきた関係が途切れないような支援ができています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、相性、関係性を把握した上で配置や関わりなどを考えて支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい居住先となる関係者には本人の詳細な情報を提供している。サービス終了後には手紙や電話等で連絡しつき合いをしている。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に思いや希望を聞き、利用者さんによっては、日常の会話や表情等から思いを汲み取る様になっている。	家族に利用者の希望や思いを聞き取り、希望に添えるようなケアを実践しています。他にも日々の会話や表情から思いを汲み取るよう努力しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人、家族、ケアマネージャー等から情報を収集する様になっている。本人と関わる中でも出てきた情報等も含めてケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画実施状況表やケース記録などで利用者の状態を職員全員で共有し日々のケアを行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、Drの意見聞き、担当者会議を通じて、介護計画書を作成している。	利用者や家族の意向をもとに、カンファレンスを行い、介護計画を作成しています。3ヶ月毎にモニタリングと評価を行い、変化がなくても見直ししています。計画の見直し前は再アセスメントを行い、カンファレンスを開催し、主治医の意見なども反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌、介護計画実施状況表、連絡ノート等を用いて職員間で情報を共有し会議時に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の外出支援、外泊支援を行なっている。利用者の状況に応じて柔軟に対応できる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防関係の方、民生委員などからも支援をいただいている。催しの参加等地域の資源も活用している。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望の病院で受診できる様にしており、支援も行なっている。また特に希望がない場合は、事業所の提携先の医療機関に受診している。	基本的には事業所が提携している医療機関に受診しています。ただ、本人や家族の希望があれば家族同行でかかりつけ医への通院が可能です。通院介助も状況に応じて行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	法人内の看護師に相談したり、診てもらったりしている。かかりつけ医にも報告し、利用者の健康管理に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、利用者の状況を詳細に伝える様にしてている。又、随時面会し、利用者の状態を医師・看護師・MSWなど病院関係者との連携に努め、利用者が早期に退院できる様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期のことについて家族と話し合っている。利用者の状態の変化などに応じて医師や家族と段階的に話し合い、利用者の支援に取り組んでいる。	入居契約時に終末期の対応が現在不可であることが説明され家族に理解を得ています。また、利用者の状態の変化に応じて医師や家族と相談をし、病院や特養とも連携をとりながら支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の既往歴や現況を把握し、研修やマニュアルを通じて対応できるように心がけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施しており、消防署の協力も得ている。半年に1度は夜間を想定した訓練も行っている。災害時に備えて食料や飲料水等も準備している。	年2回消防訓練が実施され内1回は夜間想定で消防署立会のもと行われています。災害時に備え食料や飲料水等の備蓄もされています。	消防訓練時に自治会や近隣住民に参加を要請するなど、非常災害時に備え、地域住民との協力体制構築に期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権研修も行っており、日々のケア方法の振り返りや見直しを行う事で、利用者の尊厳の保持、プライバシーに配慮したケアを行っている。	プライバシー保護や人権について外部研修に参加したり、勉強会を事業所内で開催するなど職員に意識付けを行い、利用者の気持ちを大切に支援が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者の希望を最優先にして支援するように心掛けている。利用者に声掛けや言葉掛けを意識して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は一人一人のペースに合わせて支援している。起床、食事、就寝など本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせて理美容への外出支援を行なっている。本人が好きな服を着たり、髪の毛をセットしたり、化粧など好みに合わせて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みや能力に合わせて準備や片付けをしている。好きな食べ物を聞いて提供できるようにしている。	食事の配下膳、調理など利用者ができることは職員と一緒にいき、食事も職員と一緒に楽しく話をしながら摂るようにしています。献立には利用者の意見も反映しています。時折、外食や前庭でのバーベキューなど楽しい企画もあります。	食事を楽しむ雰囲気づくりをする為、職員も利用者と一緒にメニューを食べてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	管理栄養士に確認してもらい、献立作りにはいかしている。食事・水分は個々に応じた物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じた口腔ケア用品を用いて、清潔の保持に努めている。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄リズムを把握し、声掛けや誘導、介助を行っている。状態に応じてポータブルトイレの設置等その時々で対応方法の変更もしている。	できる限りトイレで排泄できるように、利用者個々の排泄パターンを排泄チェック表をつけ把握し、利用者個々に合わせたリズムで排泄支援がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動に留意し、便秘予防への対応に心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回入浴ができるようにしており、希望の日にも入浴できる様にしている。利用者が安心して入浴できるように個別に合わせて対応している。	週に3回の入浴日が決められていますが、利用者の体調や希望に応じ、変更も可能で、ゆっくりと一人一人の気持ちに合わせた入浴を支援しています。また、季節に合わせた菖蒲湯や柚湯、寒くなった時の足湯なども用意されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調の変化、希望に応じて整容時間の確保を行っている。気持ちよく寝れるように体位等にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や副作用についてはスタッフが見やすい様にファイルしている。利用者に合わせて服薬の支援を行ない、主治医には利用者の状態変化に応じて薬の調整もしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好みや得意なことに合わせて内容を考え支援している。		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて散歩や買物等の外出支援を行なっている。又家族の協力による外出支援も行なっている。</p>	<p>日常的に散歩や買い物で外出する機会があります。花見や外食など楽しみが持てる企画もあります。また、利用者個々の希望によりコンサートや映画への外出支援もされています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者に合わせて金銭を所持し、実際に買物をされている利用者もおられる。事業所でも金銭を預かっており、毎月家族へ出納帳を送付し残高確認証でも家族に確認してもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の親族への定期的な電話の支援など自由にやり取りができる様にしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には温度計、湿度計、換気扇を設置している。又季節に応じて加湿器も設置している。共用部分にはレースのカーテン等を使用して明かりを取り入れている。</p>	<p>ソファやテレビを置き、ゆったりとした空間になっています。共用空間には利用者が作成した季節の飾りが飾っており、窓からは光がよく入り明るい空間になっています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用部のソファ、テーブル等を設置しており、利用者数人で過ごせる空間を確保している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者に応じて家族の協力を得ながら、使い慣れた家具や好きなものを居室に持込んでもらえる様に努めている。</p>	<p>家族の理解を得て、利用者が安らげるなじみの家具や趣味のもの、写真などが持ち込まれており、温かい雰囲気づくりに努めています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手摺を設置したり、利用者の状態変化に応じて居室内を安全に配慮したベット位置へ変更したりと安全に過ごしやすいように工夫している。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない